

研究室年鑑 2018年度

研究室年鑑 2018年度

発行 2019年7月7日

発行者 横浜国立大学 交通と都市研究室
〒240-8501
横浜市保土ヶ谷区常盤台 79-5
<http://www.cvg.ynu.ac.jp/G4/index.html>

編集 池谷 風馬 作田 莉子
鈴木 渉 三宅 佑

発行協力  Local iST Local iST 株式会社

 横浜国立大学 交通と都市研究室
Transportation and Urban Engineering Lab.

メンバー紹介 2

研究室について 3 - 4

センター・オブ・イノベーション (COI) 5 - 6

モビリティ・デザインの実践 (MD) 7 - 8

サタデー・フィールド・トリップ (SFT) 9 - 10

合宿 11

視察・見学・ヒアリング 12 - 14

論文紹介 15 - 16

先生紹介 17 - 18

- D3
神之門はな子
Atanasion Albelto Tembe
Sherif Shokry Abdrabo Hassan
- M2 (10 月入学)
Kyi Swe Aye
May Thandar Lwin
Rana MD Sohel
Ong Truong Ich
Safrizal Alvian
- M1 (10 月入学)
Eaindray Oo
Yu Wai Thin
Chinbat Tugsdelger
- M1→M2 (10 月入学)
Myat Phyo Han
Nay Lwin Hein
Juan Pablo Perez Pinto
- B4
金澤 康平
河野 惇
樋口 智大
藤田 和己
- 松尾 洋希
三宅 佑開
宮西 開
- D1
Martial Leo
Tissayakorn Kittipong (10 月入学)
- M2
赤川 貴寛
汪 宇涛
早内 玄
平野 秀也
- 堀 弥樹
山口 菜乃
吉種 教平
- M1
池谷 風馬
加藤 慶太
作田 莉子
澤田 唯依
- 瀬良 敦希
種崎 夏帆
福山 大地
森下 恵介
- JOY プログラム (秋学期)
Franco Silva Milena
Moriya Fernanda Lie



▲集合写真 (2018 年 4 月 20 日、土木棟前にて)

研究室について

◆ なぜ交通と都市なのか

交通には人やものの動き、自動車やバス、自転車などの交通手段、道路や軌道、ターミナルなどさまざまな側面がありますが、これらは日常の生活、経済活動の双方の面から欠かせないものです。交通と都市研究室では、都市における多様な交通問題を解決するため、都市交通、都市計画、交通工学について研究し、より多くの人々にとっての安全で快適な交通システムに寄与することを目指しています。

◆ 国際性のある研究室

2018年度には11人の留学生が在籍していました。毎年多くの留学生が来ており、研究室全体ではおよそ3分の1を占めています。隔週行われる全体ゼミでは留学生も参加し、そこで互いの研究内容について質疑を行っております。さらに研究室には、短期留学やJICA研修、さくらサイエンスなどで中国や、タイ、ブラジル、モンゴルなど様々な国から学生が訪問しており、常に活気のある研究室です。



▲毎週のゼミの様子



▲学会発表の札幌にて

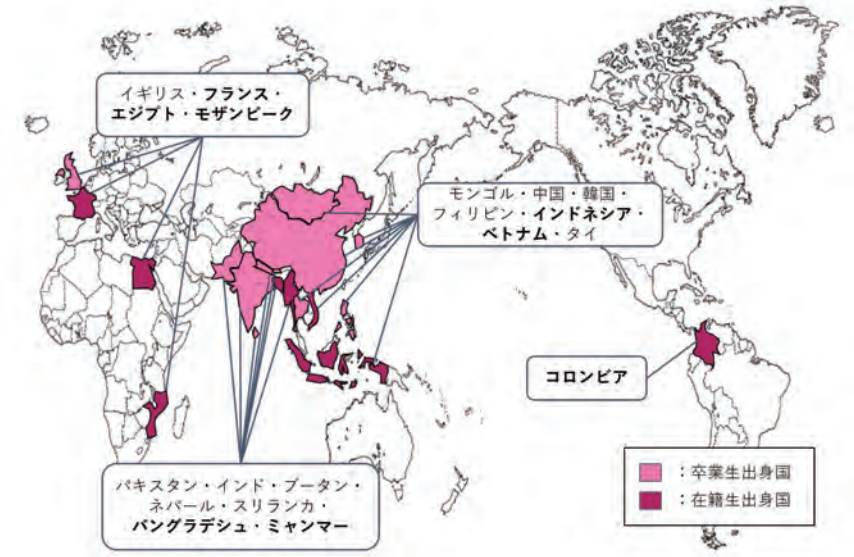


▲留学生と記念写真

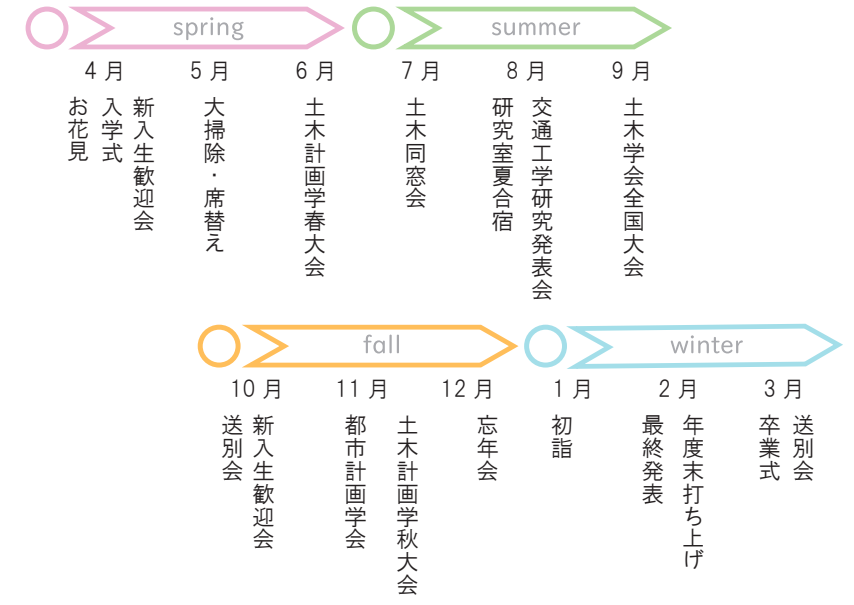


▲土木同窓会後の飲み会

◆ 留学生の出身国



◆ 研究室の年間スケジュール



人口減少 × 高齢化 × 環境重視の

社会を生き生きと持続させるための交通システム

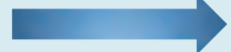
センター・オブ・イノベーション (COI) プログラムは、10年後の目指すべき社会像 (ビジョン) を見据えたチャレンジング&ハイリスクな研究開発を、最長で9年度 (H25 ~ R3年度) 支援するプログラムです。

本学では、人口減少・高齢化かつ環境重視の社会を生き生きと持続させることを目的に、費用効果的で環境負荷が小さく、誰もが無理なく利用できる「スマート&マルチモーダル・モビリティシステム」の研究開発を行っています。情報提供による人々のかしこい移動手段の選択の支援、自家用車に代わり得る移動手段の選択肢の提供、そして移動の基盤となる道路インフラの安全性の保持を実現するための包括的な取り組みが特徴です。

✓ COI サテライト YNU ホームページにも
情報を載せています。
<http://coi-tms.ynu.ac.jp/index.html>



自動車中心のまちから
住み続けられる
人間中心のまちへ



▲ 横浜国大 COI が目指すビジョン

◆ 2018年度実績

グリーンスローモビリティによる移送サービス実証実験
EV を活用したエネルギーマネジメントとモビリティサービス
群衆密度可視化実験 (@新横浜花火大会 2018)
道路維持管理支援システムの実用化に向けた保土ヶ谷区でのアジャイル開発

2018年に学内に設置した持続可能なモビリティシステム研究拠点 (サスモシス: Sus-Mo-Sys) では、国連の持続可能な開発目標 (SDGs) の1つである「11. 住み続けられるまちづくり」の達成に資する持続可能な交通システムを実現するため、以下の項目から構成される包括的な計画手法を構築し、実証実験に基づく手法の研鑽を通じて、新たな枠組みや事業としての社会実装につなげるための取り組みを行っています。

- 交通手段の選択を支援する情報提供
- 交通の構成要素の空間デザイン
- 交通対応型のデータ基盤
- 自家用車を代替し得る新たな交通手段
- 交通インフラの機能保持と運用効率化
- TOD型まちづくりと公共交通計画

◆ サスモシスによる月例セミナーシリーズ 「持続可能な都市を支えるモビリティ」

持続可能なモビリティシステム研究拠点では、交通分野のイノベーティブな技術・コンセプトを取り上げ、現在および将来の地域・都市における自動運転とMaaSのあり方について議論するセミナーを開催しています。中村文彦教授がファシリテーターを務め、関連分野の最先端で活躍している方々をお招きしてのパネルディスカッションでは、毎回活気のある議論が展開されます。

▼ 2019年のセミナー開催実績 (2019年7月7日現在)

回	月日	タイトル/ゲスト	来場者数
第1回 (写真左)	1月30日	都市交通とMaaS 計量計画研究所 三菱総合研究所 牧村 和彦氏 外山 友里絵氏	80人
第2回	4月25日	MaaS — 先駆的な海外事例に学ぶ— モビリティデザイン・コンサルタント・ ジャーナリスト 楠田 悦子氏	90人
第3回	5月13日	地方型MaaSへの期待と課題 福島大学経済経営学類准教授 吉田 樹氏	100人
第4回 (写真右)	6月12日	地域公共交通におけるイノベーション 国土交通省総合政策局 公共交通政策部交通計画課長 蔵持 京治氏	100人



都市交通デザインの提案を通じて、人々の移動を、まちをより豊かに

「モビリティ・デザイン (MD) の実践」では、人々の移動のしやすさ、すなわちモビリティを総合的にデザインする考え方を、具体的な地区での改善提案活動を通じて学ぶことを目的としています。これまでの交通計画や都市計画での講義や演習の中では十分に培われなかった、まちづくりと移動環境のつながりや、交通手段間の連携などについてのプランニングマインド感覚を身に着けるべく、活動を行っています。



▲ 報告会での発表の様子

このMDでは、テーマごとに班単位で活動を行っています。それぞれの班で週1回以上話し合いや現地調査を行い、学内で行われる年4回の報告会および学外におけるその地域の方々や企業に向けた発表会を通して、その成果を披露しています。

◆ 2018年度の参加者

学生：30名(安達洋輔、稲田周介、大井隆也、佐々木紅映、佐藤大介、田村大樹、長田朋樹、倪書晴、ニャムエルデネ ナモン、原田なつ、村山達也、吉田悠人、渡邊茜、池田恵人、中島聡志、松本峻太郎、俣田卓磨、三浦遼太郎、山岸ひかり、湯山由佳、三宅佑、池谷風馬、加藤慶太、作田莉子、澤田唯依、瀬良敦希、種崎夏帆、福山大地、森下恵介、早内玄、平野秀也)

担当教員：中村文彦、有吉亮、三浦詩乃

✓ 研究室ホームページにも
情報を載せています。
<http://www.cvg.ynu.ac.jp/G4/MD.html>



◆ 2018年度のテーマ

- ① 羽沢横浜国大駅への通学路提案
…新駅と大学をつなぐ道路上の安全性に着目した提案
- ② コンケン市中心市街地のストリートマネジメント
…歩行者優先の街路整備プロセスの提案
- ③ 公共空間利用者の多様性の測り方提案
…公共空間の特性を表す行動調査の方法を検討
- ④ インバウンド需要への路線バスの取り組み
…情報提供や乗降方法改良を中心とする改善提案
- ⑤ 超高齢化社会での新しいバスサービス
…将来を見据えたバスサービスの在り方に関する提案
- ⑥ 在来鉄道貨物線のLRT化
…葛飾区を南北に結ぶ在来貨物線「新金線」のLRT化検討
- ⑦ 湘南モノレールの魅力発進
…湘南モノレールからみる新交通システムの新たな可能性の検討



▲ グランドプラザ (富山県富山市)



▲ タイ王国コンケン市にて



▲ 湘南モノレール (神奈川県鎌倉市)

月に一度、土曜日に開催される”まち”の勉強会

おおよそ月に一度、土曜日に開催される研究室主催の現地踏査勉強会です。講義で紹介された事例を中村先生と一緒に歩ける貴重な機会になっており、留学生との交流の場にもなっています。現地で様々な事例をその背景や経緯を交えて説明していただけるので、より深く学ぶことができます。

横浜国立大学の学生や研究室のOBOGなど、中村先生の講義を受けたことのある方であれば、だれでも参加することができます。原則公共交通移動で施設ヒアリングなども行わないため、当日参加も可能となっています。参加希望の方は、中村先生に直接メールをしてください。SFT 日程は、中村先生のブログで確認することができます。

2018年度のSFTは、神奈川県内を中心に7回開催されました。学部1～3年の学生も毎回数多く参加している他、12月には交流事業で日本に来ていた海外の高校生・大学生・大学院生の学生さんも参加され、2018年度の参加者数はのべ135人でした。2019年度も既に2回開催されており、いずれも多くの学生が参加しています。



▲浦賀の渡し船



▲水無川沿いを散策



▲中村先生の熱いレクチャー



▲海外からの学生さんとともに

▼2018年度 SFT 一覧

年	月日	開催エリア・見学内容	参加人数
2018年	4月7日	① 横須賀・浦賀地区、観音崎地区	18人
	7月14日	② 秦野市内で12用途地域の制覇	24人
	8月3日	③ 羽沢横浜国大駅、羽沢農用地域	21人
	10月13日	④ 湘南モノレール、江の島の旧漁村空間	17人
	12月8日	⑤ 千葉ニュータウン	33人
2019年	1月14日	⑥ 田園都市線沿線地域開発（鷺沼～江田）	13人
	3月23日	⑦ 浦安の旧市街地と防災まちづくり	9人



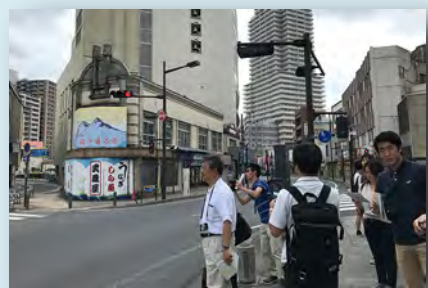
▲2018年度 SFT マップ

その都市が抱える諸問題について、交通の観点から調査・提案

研究室行事として年1回、学外に出て2～3日の泊まりがけの行程で合宿を行っています。2018年度は夏休み期間中の9月7・8日に、茨城県土浦市にて研究室夏合宿を行いました。合宿の1か月ほど前から、合宿先となる土浦市についての以下3つのテーマで班に分かれ事前準備や調査等を行い、当日はそれぞれの班の成果を報告しました。

- ① 中心市街地歩行者空間改善提案班
- ② 土浦駅前バス乗降施設運用案内改善提案班
- ③ 高架道路活用案（含む下部）提案班

報告会当日は筑波大学の谷口守教授、岡本直久教授、谷口綾子准教授、そして学生の方々にもお越しいただき、報告ごとに質問やコメントなどを頂きました。また、報告会後は両大学の先生方のミニ講義もあり、とても充実した土浦合宿となりました。



▲土浦駅付近での現地調査



▲成果報告



▲筑波大の先生方のミニ講義



▲バスターミナルの動線設計についての提案

取り組まれている国内外の交通政策・都市計画を、現地で学ぶ

国内外を問わず、積極的に視察や見学、ヒアリングを行っています。先生方の出張に同行させていただくこともあり、時には親交のある海外の研究室の学生さんと一緒に、都市交通や都市計画の事例を視察しました。



▲電停と札幌市電のLRV



▲ボゴタの道路空間

◆ 2018年度の行先一覧

- | | | | |
|----|---|-----|---|
| 5月 | ドレスデン、ベルリン | 11月 | 沖縄、那覇
大阪 |
| 6月 | お台場
銀座
亀戸 | 12月 | 東急元住吉 |
| 7月 | 富山
福岡
並木団地
港北ニュータウン
たまプラーザ
青葉台
札幌 | 1月 | 成田
佐原 |
| 9月 | ボゴタ、メデジン
クリチバ (p. 13) | 2月 | みなとみらい
中華街
関内、関外
東急設計
松山・高松 |
| | | 3月 | ポートランド (p. 14) |

◆ クリチバ訪問

毎年クリチバへの短期訪問を、中村先生が主催しています。2018年度は、M1が1名、B3が3名参加しました。南米の都市交通の先進都市であるクリチバにおいて、パラナ・カトリカ大学（PUC）との交流、行政機関（IPPUC：クリチバ都市計画研究所、URBS：クリチバ都市公社）への訪問などを通じて、モビリティのデザインがどのように実践されているかを学びました。また、環境面からクリチバのかたちを築かれた中村ひとし様にもご同行いただき、クリチバ市内を案内していただきました。

更に、この短期訪問ではホームステイを通じて、現地の文化を身をもって体験することができました。



◀ チューブ型のバス停を
発車する三連接バス



▲ 中村先生とチューブ型のバス停



▲ 開発軸に沿った開発を展望



▲ IPPUC を訪問



▲ 中村ひとし様のお話を拝聴

◆ ポートランド訪問

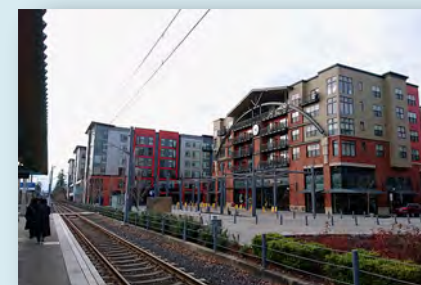
2019年3月にアメリカ合衆国オレゴン州のポートランド州立大学にて、ポートランド研修に参加しました。この研修では、ポートランドにおける先進的な都市イノベーションの取り組みについて、視察やヒアリングを通して学ぶとともに、本学の国際ブランチが設置されているポートランド州立大学での先生方や学生さんとの交流および特別講義を中心に実施されました。

現地では、中村先生や松行先生によるフィールドトリップ（UGB、Orenco、ウォーターフロントパーク、Tilikum Crossing、ローレンス・ハルプリンによる3つの広場の見学、パーク&ライド施設、バス乗り継ぎ施設、ビオトープ処理広場の見学）を実施していただき市内を視察しました。また、ITE-STEPでのequityについての議論を行い、学びを深められた研修となりました。

「Tilikum Crossing」は歩行者、
自転車、ストリートカー、LRT、
路線バスのみが渡れる橋



▲ MAX ライトレール



▲ Orenco 駅の駅前空間



▲ 街路を散策



▲ ラブジョイプラザ

論文紹介

◆ 2019年3月発表 博士論文

A STUDY ON UNCONVENTIONAL ARTERIAL INTERSECTION DESIGNS (UAIDs) APPLICABILITY BY DEVELOPING COORDINATION ALGORITHMS UNDER THE HETEROGENEOUS TRAFFIC CONDITIONS
(混合交通環境における交錯除去交差点の適用可能性とその系統制御アルゴリズム開発に関する研究) Sherif Shokry Abdrabo Hassan

A STUDY ON TRANSPORTATION BEHAVIOR FROM PERSPECTIVES OF POVERTY, MOTORIZATION, AND LESS ORGANIZED PUBLIC TRANSPORTATION: CASE STUDIES FROM MAPUTO AND NAIROBI CITIES
(貧困、モータリゼーション、組織化が不十分な公共交通の観点に基づいた交通行動に関する研究：マプト市とナイロビ市を事例に) Atanasio Alberto Tembe

◆ 2018年7月発表 修士論文

URBAN ACCIDENT BLACKSPOTS AND ROAD TRAFFIC ACCIDENT VULNERABILITY: A CASE STUDY OF EAST JAKARTA MUNICIPALITY, INDONESIA
(都市の事故多発箇所と道路交通事故の脆弱性：インドネシア、東ジャカルタを事例として) Alvian Safrizal

A STUDY ON MODAL CHOICE BEHAVIOR OF HIGH SCHOOL STUDENTS IN DA NANG CITY, VIETNAM
(ベトナムのダナン市における高校生の通学交通手段選択行動に関する研究) Ong Truong Ich

A STUDY ON PROPER INTERSECTION LAYOUT DESIGN FOR HIGH-PROPORTION MOTORCYCLE TRAFFIC IN MANDALAY CITY
(二輪車交通比率の高いマンダレー市における交差点幾何構造の改善提案に関する研究) Kyi Swe Aye

ANALYSIS OF ON-STREET PARKING IMPACTS ON TRAFFIC FLOW AND PROPOSAL OF ITS COUNTERMEASURES
(路上駐車交通への影響分析とその改善策の提案に関する研究) May Thandar Lwin

A STUDY ON EXPECTED IMPACTS OF DHAKA BUS RAPID TRANSIT ON LAND USE ALONG THE CORRIDOR
(ダッカのBRTの沿線土地利用への期待されるインパクトに関する研究) Md Sohel Rana

◆ 2019年3月発表 修士論文

道路ネットワークの円滑性評価に基づく都市内の適正な駐車場供給量の算定方法に関する研究 赤川 貴寛

地形条件の交通手段選択への影響に関する基礎的研究—高低差・勾配に着目して— 早内 玄

パラトランジットの特性を考慮したストリートマネジメントの在り方の研究—タイ・コンケン市のソンテオを事例に— 平野 秀也

東南アジア・日本の都市内における街路空間の利活用計画手法に関する研究 堀 弥樹

公共交通指向型開発における自家用車利用の評価に関する研究 山口 菜乃

一車線流入部を有する十字路口信号交差点における交通容量算定式の構築に関する研究 吉種 教平

SA 駐車場における可変情報板の導入による渋滞緩和効果に関する研究 汪 宇涛

◆ 2019年3月発表 卒業論文

実測データを用いたPTPS(公共交通優先システム)の現状評価に関する研究 金澤 康平

プローブカーデータを用いた突発事象発生時の経路分析 河野 惇

駅周辺施設の再整備が地域住民の意識変化や行動変化に与える影響に関する研究—南万騎が原駅を対象として— 樋口 智大

旅行者の気質が情報利用と行動変更に与える影響に関する研究 藤田 和己

自動二輪車使用者の駐車場利用による交通行動変化に関する研究 松尾 洋希

路面電車の乗降空間における潜在的危険性に関する研究—朝倉電停(高知県)を事例として— 三宅 佑

複数交差点の実測に基づく Alternative Intersections/Interchanges の交通容量評価 宮西 開

◆ 査読付論文

瀬良敦希, 中村文彦, 有吉亮, 田中伸治, 三浦詩乃:「地下鉄における『安心』の構造と事業者施策が安心度合に及ぼす影響に関する研究」, 交通工学論文集, 第5巻, 第4号, pp. A_58-A_63.

作田莉子, 有吉亮, 中村文彦, 田中伸治, 三浦詩乃:「バス待ち行動分析に基づくバス停でのバス待ち抵抗緩和の要因に関する研究」, 交通工学論文集, 第5巻, 第2号, pp. A_285-A_292.

池谷風馬, 田中伸治, 中村文彦, 有吉亮, 三浦詩乃:「中心業務地区における交通流と歩行者への影響を考慮した路上駐車管理方針に関する研究」, 交通工学論文集, 第5巻, 第2号, pp. A_118-A_124.

福山大地, 田中伸治, 中村文彦, 有吉亮, 三浦詩乃:「自転車考慮した信号制御の指針作成に向けた観測調査に基づく自転車のクリアランス時間の分析」, 交通工学論文集, 第5巻, 第2号, pp. A_161-A_166.

SHOKRY Sherif, TANAKA Shinji, NAKAMURA Fumihiko, ARIYOSHI Ryo, MIURA Shino:「PERFORMANCE EVALUATION OF CONSECUTIVE SIGNALIZED INTERSECTIONS UNDER HETEROGENEOUS TRAFFIC CONDITIONS IN CAIRO, EGYPT」, 土木学会論文集 D3, Vol. 74, No. 5, pp. I_1207-I_1218.

岩柳智之, 田中伸治, 中村文彦, 有吉亮, 三浦詩乃:「維持管理費用の縮減と地域の効用の低下の比較による廃橋を含めた橋梁管理のあり方に関する研究」, 土木学会論文集 D3, Vol. 74, No. 5, pp. I_1069-I_1079.

田原正博, 中村文彦, 田中伸治, 三浦詩乃:「発展途上国における持続可能なBRTに関する研究:バンコクBRTを事例として」, 土木学会論文集 D3, Vol. 74, No. 5, pp. I_1121-I_1130.

犬飼望, 田中伸治, 中村文彦, 有吉亮, 三浦詩乃, 小根山裕之, 柳原正実:「平面交差部における Alternative Intersections の日本への適用に関する研究」, 土木学会論文集 D3, Vol. 74, No. 5, pp. I_1327-I_1338.

長野高志, 中村文彦, 田中伸治, 有吉亮, 三浦詩乃:「大都市郊外における利用者数大幅減少鉄道駅の特性分析に関する研究」, 土木学会論文集 D3, Vol. 74, No. 5, pp. I_1101-I_1109.

神之門はな子, 中村文彦:「ステーションレイアウトの違いによる自転車シェアリングコスト差異に関する研究」, 土木学会論文集 D3, Vol. 74, No. 5, pp. I_571-I_580.

Atanasio Tembe, Fumihiko Nakamura, Shinji Tanaka, Ryo Ariyoshi, Shino Miura:「The demand for public buses in sub-Saharan African cities: Case studies from Maputo and Nairobi」, IATSS Research (International Association of Traffic and Safety Sciences).

種崎夏帆, 中村文彦, 田中伸治, 有吉亮, 三浦詩乃:「駐車場の再配置による重要伝統的建造物群保存地区の歩行環境の改善に関する研究:佐原の町並みを事例として」, 都市計画論文集, Vol. 53, No. 3, pp. 1413-1419.

Sherif Shokry, Shinji Tanaka, Fumihiko Nakamura, Ryo Ariyoshi, Shino Miura:「Bandwidth Maximization Approach for Displaced Left-Turn Crossovers Coordination under Heterogeneous Traffic Conditions」, Journal of Traffic and Transportation Engineering 6 183-196.

早内玄, 中村文彦, 田中伸治, 有吉亮, 三浦詩乃:「都市内交通のトランスポーターションギャップ解消に向けた索道の役割に関する研究」, 交通工学論文集, 第4巻, 第1号(特集号A), pp. A_223-A_228.

◆ 学会口頭発表

- 土木学会全国大会第73回年次学術講演会・・・7件
- 第58回土木計画学研究発表会・・・9件
- 日本都市計画学会第53回学術研究論文発表会・・・1件
- 第38回交通工学研究発表会・・・4件

◆ メンバーの受賞歴

土木学会全国大会第73回年次学術講演会・優秀発表賞受賞 福山 大地



▲土木学会全国大会で優秀発表賞を受賞した福山くんの発表



中村文彦

NAKAMURA Fumihiko

大学院都市イノベーション研究院所属。教授。横浜国立大学副学長。東京大学大学院工学系研究科都市工学専攻博士課程中退。工学博士。



田中伸治

TANAKA Shinji

大学院都市イノベーション研究院所属。准教授。東京大学大学院工学系研究科社会基盤工学専攻修士課程修了。博士(工学)。

Keywords

都市交通計画、公共交通工学、モビリティ・デザイン、途上国都市交通政策

Comment

都市を支え、都市をかたちづくる都市交通への高い関心から研究・教育をしています。環境問題、交通安全問題、福祉問題など様々な問題を抱え続ける都市の課題解決のために、交通システムとしてできることは何なのか、歴史、理論そして先進事例を通して学び、社会への提言を目指して活動しています。特に、バス(Bus Rapid Transitを含む)、路面電車(Light Rail Transitを含む)、自転車、歩行者を都市の中でどのように位置づけていけばよいのか、経済的に裕福ではない途上国の都市で急速な人口増加やモータリゼーションに、どのように効率的に対処していけばよいのか、自家用車に過度の依存をしないで済むまちをかたちづくるためには、いわゆる公共交通指向型開発(Transit Oriented Development)をベースにしたとして、どのようにそれを推進していけばよいのか、よりミクロスケールで都市の中の街路(ストリート)の空間の配分と運用、沿道との関係をどのように変えていけばよいのか、といったあたりに関心があります。

Keywords

交通工学、交通運用・制御、交通マネジメント、ITS(高度道路交通システム)

Comment

交通は、私たちの生活に不可欠な存在であるだけでなく、都市の様々な活動を支える極めて重要な役割を担っています。事故・渋滞といった交通に関する諸問題を解決することはもちろん、環境負荷が少なく快適で暮らしやすい都市を実現するためには、現象を的確に理解し、都市の中での交通システムを適切に位置づけた計画・設計・運用が必要です。交通と都市研究分野では、交通現象の解析や利用者行動・意識の分析、課題に対する改善策の立案・評価等を通じて、よりよい都市と交通のあり方を模索する研究を行っています。交通が好きな人、都市の様々な問題を解決したい人、魅力あるまちをつくりたい人など皆さんの参加をお待ちしています。

Keywords

協働・共有型モビリティ、マルチモーダル情報提供、道路維持管理支援、持続可能なモビリティシステム

Comment

横浜国立大学の交通と都市研究室は、学術と実現社会との関わりを強く意識しており、教育・研究活動において実証的、実践的な視点とアプローチを大切にしています。企業や自治体等との協働による研究開発プロジェクトにも積極的に取り組んでおり、平成25年度からは文部科学省のセンター・オブ・イノベーション(COI)プログラムの支援を受け、スマートで包括的な都市交通システムの実現に向けた研究開発を進めています。私たちのくらしの舞台となるまちや、アイデアやビジョンをお持ちの方は、ぜひ一緒にその想いを行動に変えましょう。

Keywords

都市デザイン、都市政策、街路計画・マネジメント、歩行者空間

Comment

都市の持続可能性の観点で、既存の社会資本をうまく「活用」するマネジメント、そのために必要な歩行者環境改善技術の提案及び制度研究をテーマとし、活動しています。これから世界各地の都市をフィールドに、広く研究・教育活動を進めていきたいと考えています。一緒にこれからの都市像を議論していただける意欲のある皆さんをお待ちしています。



有吉 亮

ARIYOSHI Ryo

大学院都市イノベーション研究院所属。特任准教授。Localist株式会社代表取締役。横浜国立大学大学院都市イノベーション学府都市イノベーション専攻博士課程後期修了。博士(工学)。



三浦詩乃

MIURA Shino

大学院都市イノベーション研究院所属。助教。東京大学大学院新領域創成科学研究科博士課程修了。博士(環境学)。